

安全データシート

プロピオン酸

作成年月日：2025 年 4 月 1 日

1. 化学品及び会社概要

化学品等の名称	プロピオン酸
供給者の会社名	コーキン化学株式会社
住所	大阪府東大阪市中石切町 3 - 7 - 49
電話番号	072-988-2300
FAX 番号	072-988-2506
電子メールアドレス	yakuji@kohkin.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	飼料添加物

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高压ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分 3	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過酸化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
		急性毒性（経皮）	区分 3
		急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）		分類できない	

	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性 / 刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分 3
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示(ピクトグラム)



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
 皮膚に接触すると有毒
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
 重篤な眼の損傷
 呼吸器への刺激のおそれ
 水生生物に有害
 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

【安全対策】
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。
 禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地しアースをとること。
 防爆型の電気機器 / 換気装置 / 照明機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する措置を講ずること。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面マスクを着用すること。
 取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 環境への放出を避けること。

【応急措置】

皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診察ノ手当てを受けること。

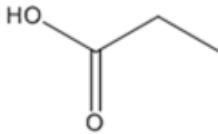
【保管】

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 容器を密閉しておくこと。施錠して保管することが望ましい。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	プロピオン酸 (Propionic acid)
別名	プロパン酸 (Propanoic acid)
濃度又は濃度範囲	99.0%以上
化学式 (分子量)	C ₃ H ₆ O ₂ (74.08)
化学特性 (示性式又は構造式)	

CAS 登録番号 (CAS RN) 79-09-4

官報公示整理番号(化審法) (2)-602
 官報公示整理番号(安衛法)
 化管法指定化学物質の種別
 分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。 多量の水と石鹼で洗うこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合	直ちに医師に連絡すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸入：灼熱感、咳、息切れ、咽頭痛。 皮膚：皮膚熱傷、痛み、水疱。 眼：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷。 経口摂取：胃痙攣、灼熱感、吐き気、ショックまたは虚脱、咽頭痛、嘔吐。 眼、皮膚、気道に対して腐食性を示す。
応急措置をする者の保護に必要な注意情報	情報なし
医師に対する特別注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水、水噴霧
特有の危険有害性	極めて燃え易く、熱、火花、火炎で容易に発火する。 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 中程度の強さの酸である。塩基、強酸化剤、アミンと反応し、火災や爆発の危険をもたらす。多くの金属を侵して引火性/爆発

	性気体(水素)を生じる。54 以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移動させない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法 及び機材	環境中に放出してはならない。 危険でなければ漏れを止める。 回収、中和：不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 二次災害の防止策：すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
二次災害の防止策	情報なし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。 禁煙。 消防法の規制に従う。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 皮膚と接触しないこと。 眼に入れないこと。
接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 皮膚や眼への接触を避ける。接触した場合は洗浄する。蒸気またはミストの吸入を避ける。使用するときには飲食、喫煙をし

ないこと。

保管

安全な保管条件

施錠して保管することが望ましい。容器を密閉して涼しくて乾燥した換気の良い場所に保管する。

着火源から離して保管する。

安全な容器包装材料

情報なし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度

ACGIH / TLV-TWA

TLV-TWA : 10 ppm TLV-STEL : 未設定

日本産業衛生学会

未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。作業場には防爆タイプの全体換気装置、局所排気装置を設置すること。消防法の規制に従う。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態：物理状態

液体

：色

無色

：臭い

刺激臭

融点・凝固点

-21.5 :HSDB(2014)

沸点又は初留点及び沸騰

141.1 :HSDB(2014)

範囲

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限

2.9 ~ 12.1vol% : NFPA (13th, 2006)

界 / 可燃限界

引火点

52 (密閉式) : HSDB(2014)

自然発火点

485 : ICSC (1997)

分解温度

データなし

pH

2.0 ~ 2.5 (1 100)

動粘性率

データなし

溶解度

水 : 1000g/L : Howard (1997)

	アルコール、エーテル、クロロフォルム：可溶：Merck (14th, 2006)
n-オクタノール/水分配係数	log Kow=0.33：PHYSPROP Database (2005)
蒸気圧	2mmHg (20)：NFPA (13th, 2006)
密度及び/又は相対密度	0.99336 (20 ,4)：Merck (14th, 2006) 0.993g/cm3 (20)：HSDB (2006)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	中程度の強さの酸である。塩基、強酸化剤、アミンと反応し、火災や爆発の危険をもたらす。多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。54 以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
避けるべき条件	54 以上
混触危険物質	塩基、強酸化剤、アミン
危険有害な分解生成物	水素

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラットのLD ₅₀ 値として、351mg/kg (雌)、426 mg/kg (雄) (SIDS (2008))、2,600mg/kg (PATTY (6th, 2012)、JECFA FAS (1973))、3,470mg/kg (雄,雌) (SIDS (2008))、4,300mg/kg (PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2001)) との5件の報告がある。2件が区分4に、3件が区分外 (国連分類基準の区分5) に該当するため、最も多くのデータが該当する区分外 (国連分類基準の区分5) とした。
経皮	ウサギのLD ₅₀ 値として、500mg/kg (雄,雌) との報告 (PATTY (6th, 2012)、SIDS (2008)、ACGIH (7th, 2001)) 及びラットのLD ₅₀ 値として、1,669mg/kg (雌) との報告 (SIDS (2008)) がある。それぞれ区分3及び区分4に該当するため、LD ₅₀ 値の最小値が該当する区分3とした。
吸入：ガス	GHS の定義における液体であるため区分に該当しない。
吸入：蒸気	データ不足のため分類できない。ラットの8時間飽和蒸気ばく露試験の結果、死亡例がみられなかった (LC0 (8時間) > 3,850 ppm (4時間換算値)：> 5,445 ppm) との報告 (SIDS (2008))、

<p>吸入：粉じん、ミスト 皮膚腐食性 / 刺激性</p>	<p>ACGIH (7th, 2001)) があるが、このデータのみではLC₅₀値がどの区分に該当するかを特定できないため、分類できないとした。なお、飽和蒸気による試験であるとの記載に基づき、ミストを含まないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。データ不足のため分類できない。</p> <p>モルモットに本物質の原液0.5mLを適用した結果、2時間後に軽度から中等度の浮腫、中等度から重度の紅斑及び壊死がみられ、24時間後及び48時間後に壊死がみられたことから、腐食性ありとされている (SIDS (2008))。また、ウサギに本物質の原液0.01mLを24時間非閉塞適用した結果、壊死がみられたとの報告がある (SIDS (2008)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012))。以上の結果から区分1とした。なお、本物質はEU DSD分類で「C; R34」、EU CLP分類で「Skin Corr. 1B H314」に分類されている。</p>
<p>眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性</p>	<p>ウサギに本物質の原液0.005mLを適用した眼刺激性試験において、重度の眼障害がみられたとの報告 (SIDS (2008)) や、腐食性ありとの報告 (IUCLID (2000)) がある。なお、本物質は皮膚刺激性/腐食性の分類で区分1に分類されている。以上の結果から、区分1とした。</p>
<p>呼吸器感作性</p>	<p>データ不足のため分類できない。なお、ヒトにおいて喘息様症状の報告が1例あるが (ACGIH (7th, 2001))、詳細不明であるため区分に用いるには不十分なデータと判断した。</p>
<p>皮膚感作性</p>	<p>データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いたマキシマイゼーション試験において感作性はみられなかったとの報告があるが (IUCLID (2000))、詳細不明であるため区分に用いるには不十分なデータと判断した。</p>
<p>生殖細胞変異原性</p>	<p>ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、チャイニーズハムスターの小核試験で陰性 (SIDS (2008)、PATTY (6th, 2012))、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の姉妹染色分体交換試験で陰性である (SIDS (2008)、NTP DB (Access on September 2104)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012))。</p>
<p>発がん性</p>	<p>国際評価機関等による発がん分類はない。ラットに長期 (生涯) 混餌投与した試験において、前胃に前癌病変として乳頭腫や過形成が認められたとの記載 (PATTY (6th, 2012)) があるが、詳細不明であり、データ不足のため分類できない。</p>
<p>生殖毒性</p>	<p>データ不足のため分類できない。</p>

ラット、マウス、ハムスター及びウサギを用いたプロピオン酸カルシウムの経口経路（混餌）での催奇形性試験において、母動物の生存、胎児の生存及び同腹児数に影響がみられず、胎児の骨格の異常も認められていない（PATTY (6th, 2012)、SIDS (2008)）。以上のように催奇形性は認められないが、生殖能に関する十分な情報がないことから分類できないとした。

特定標的臓器毒性（単回ばく露） 本物質は気道刺激性があり、ヒトの吸入ばく露で気道粘膜を刺激して咳、喘鳴が生じたとの報告がある（SIDS (2008)、ACGIH (7th, 2001)、HSDB (Access on August 2014)）。実験動物のデータはない。

以上より、区分3（気道刺激性）とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露） 本物質のナトリウム塩を成人男性に1日経口摂取量として6,000mgまで与えても、尿が僅かにアルカリ性を示す以外に無影響であった（JECFA FAS (1979)、PATTY (6th, 2012)）。実験動物では、ラットに3ヶ月間、又はイヌに約100日間混餌投与した試験において、ラットでは50,000ppm（約2,500 mg/kg/day（換算はppmの数値を20で除した））で前胃粘膜に刺激性変化が、イヌでは30,000ppm（1,832-1,848 mg/kg/day相当）で食道粘膜に過形成がみられ、いずれも局所影響以外に重大な毒性所見はみられなかった（SIDS (2008)、EPA Pesticide (1990)、PATTY (6th, 2012)）。

以上、ヒト及び実験動物における知見より、経口経路では区分外相当であるが、他経路での毒性情報がなく、データ不足により「分類できない」とした。

誤えん有害性 データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性） 甲殻類（オオミジンコ）での48時間EC₅₀=22.7ppm（AQUIRE, 2010, 他）であることから、区分3とした。

水生環境有害性 長期（慢性） 急性毒性が区分3、生物蓄積性が低いと推定されるもの（log Kow=0.33（PHYSPROP Database, 2005））、急速分解性が不明であることから、区分3とした。

オゾン層への有害性 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
残留性・分解性 化審法分解度試験：良分解性（化学物質安全性点検結果等（分解性・蓄積性））

生態蓄積性 データなし

土壤中の移動性 データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則

国連番号	3463
品名（国連輸送名）	プロピオン酸
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	8
副次危険	3
容器等級	
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL73/78附属書及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	該当する

国内規制

海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
特別な安全上の対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
その他（一般的）注意	情報なし
緊急時応急措置指針番号	132

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	該当しない
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物（ 1% ）

	名称等を通知するべき危険有害物 (1 %)
	皮膚刺激性有害物質 (> 1 %)
	危険物・引火性の物 (施行令別表第 1 第 4 号)
消防法	第 4 類 引火性液体 第 2 石油類 水溶性液体 指定数量 2,000L
海洋汚染防止法	有害液体物質 (Y 類物質) (施行令別表第 1)
船舶安全法	腐食性物質
航空法	腐食性物質

16 . その他の情報

この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にしたものですが、すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定などにご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、物理化学的性質などの数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の手扱いを想定しており、特殊な取扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

< 引用文献 >

- 厚生労働省 職場のあんぜんサイト：モデル SDS 「プロピオン酸」 2015 年 3 月 31 日改訂版
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構：化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構：政府による GHS 分類結果「プロピオン酸」、物質 ID：H26-B-083, R-066 (平成 26 年度分類)
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構：NITE 統合版 GHS 分類結果「プロピオン酸」、物質 ID：m-nite-79-09-4_v1
- 17322 の化学商品 (2022 年版)：化学工業日報社